

日本看護医療学会雑誌投稿規定

1. 本誌投稿者は、原則として著者及び共著者すべて、本学会員とする。但し、編集委員会により依頼した原稿はこの限りでない。
2. 原稿は下記の論文種別による内容であり、刷り上がりで制限頁数以内とする。その掲載料は有料とし、別途に定める。
論文種別：内容と制限頁数（図表を含む）。原則として、すべて英文・和文サマリーを要す。
オリジナル・アーティクル：独創的で新しい研究成果を記述した研究論文。学術上の価値および有用性があり、看護学および医療の発展への貢献が期待できるもの。10頁
（英文・和文サマリー 1頁を含む）
短 報：オリジナル・アーティクルと同じ性格で、速報的に書かれたもの。5頁
総 説：看護・医療・福祉等に関連する諸分野の特定のテーマについて文献レビューによる学問的状況の概説。技術的価値と有用性および信頼性を備えたもの。10頁
資 料：看護・医療・福祉に関連する諸分野の研究・実践に資すると認められるもの。10頁
そ の 他：4頁
原稿はA4判1600（40×40）で刷り上がり1頁とする。図表は1点が刷り上がり4分の1頁とする。但し、編集委員会が認めた場合は、この限りでない。
3. 別刷については、予め著者より申し受けて実費を著者負担とする。
4. 図表はA4判用紙にトレースした原図を添える。また、印刷業者でトレースが必要になったときは実費を徴収する。
5. 原稿には、所定の表紙を付け、表題（和文、英文）、著者全員の氏名（ローマ字名併記）・所属機関（英文併記）・会員番号、代表者の氏名および連絡先（住所、電話番号、FAX番号、Eメールアドレス）、キーワード5つ以内（英単語表記）、希望する原稿種別、本文・図表・写真の枚数、別刷り希望数、利益相反および外部資金について記入する。
6. 投稿原稿は、表紙、本文、図表、写真等のオリジナル原稿1部および所属・氏名・会員番号・連絡先を除いた査読用コピー3部を提出し、学会ホームページからダウンロードして著者が署名（自筆）および捺印をした宣誓書一部を同封する。デジタルデータは最終修正時に提出する。
7. 投稿原稿の採否及び種別については、編集委員会で決定する。なお、原稿は原則として返却しない。
8. 校正に当たり、初校は著者が、2校以後は著者校正に基づいて編集委員会が行う。なお、校正の際の加筆は一切認めない。
9. 原稿執筆要項は、別に定める。
10. 著作権については、会員の権利保護のために、掲載された原稿の著作権は本学会に属するものとする。帰属する資料を引用するときは、著者がその許可手続きを行う。
11. 原稿送付先
〒461-8673 名古屋市東区大幸南1-1-20
名古屋大学大学院医学系研究科 看護学専攻内
日本看護医療学会編集委員会 委員長 宛
なお、封筒の表には、「日看医誌原稿」と朱書きし、書留郵便で郵送する。
12. この規定は1999年10月2日より発効する。
この規定は一部改訂につき、2001年9月29日より発効する。
この規定は一部改訂につき、2003年9月27日より発効する。
この規定は一部改訂につき、2005年10月1日より発効する。
この規定は一部改訂につき、2006年10月7日より発効する。
この規定は一部改訂につき、2007年10月6日より発効する。
この規定は一部改訂につき、2009年10月3日より発効する。
この規定は一部改訂につき、2011年10月1日より発効する。
この規定は一部改訂につき、2014年10月1日より発効する。
この規定は一部改訂につき、2015年10月10日より発効する。

原稿執筆要項

1. 原稿につける表紙は本誌掲載の書式をコピーするか、本学会ホームページからダウンロードして使用する。
2. 原稿はA4判に1600（40×40）字の横書きとし、本文に頁数を明記する。
3. 当用漢字、新かなづかいを用い、ワードプロセッサによる印書とする。
4. オリジナル・アーティクルの構成は、Ⅰ. 緒言、Ⅱ. 方法、Ⅲ. 結果、Ⅳ. 考察、Ⅴ. 結論、Ⅵ. 文献、とし、項目分けは、1. 2. 3. …, 1) 2) 3) …, Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ…の区分とする。
5. 数字は算用数字を用い、単位や符号は慣用のものを使用する。特定分野のみで用いられる単位、略号、符号や表現には註書きで簡単な説明を加える。なるべく国際的な共通語を使用する。すべての単位はSI単位とし、次のようなものを用いる：kg, mg, ng, Eq, mm, ml, kcal, ℃, min等。単位にはピリオドを付す必要はない。イタリックを使用する文字には、アンダーラインを付す。
6. 図表、写真等は、それを説明する文章の末尾に（表1）のように記入し、更に本文とは別に挿入希望の位置を原稿の欄外に（表1）のごとく朱書する。図表は、原稿本文とは別にまとめて、巻末に添える。図表の表題は、原則として、図ではその下部、表ではその上部に明示する。
7. 文献記載の様式
 文献は、本文中に、著者名、発行年次を括弧表示し、本文原稿の最後に、著者名のアルファベット順に整理して記載する。著者名は、4名以上の場合は最初の3名を記載し、以下「他」（外国語文献の場合は「*et al.*」）とする。
 雑誌略名は邦文誌では、医学中央雑誌、欧文誌では、INDEX MEDICUS及びINTERNATIONAL NURSING INDEXに従うものとする。
8. 投稿前に本誌掲載のチェックリストを用いて内容を確認する。

【記載方法の例示】

※雑誌の場合；著者名（発行年）：論文名、雑誌名、巻(号)、頁. の順に記載する。

林 美子, 中根美智子 (1998)：動脈注入化学療法を受ける患者の看護, 臨床看護, 25(2), 234-238.
 Koyano W. (1989)：Japanese attitude toward the elderly: A Review of research findings, *Journal of Cross-Cultural Gerontology*, 4, 335-345.

※単行書の場合；著者名（発行年）：書名、引用頁、発行所、発行地. の順に記載する。

見藤隆子 (1993)：学問としての看護, 108, 医学書院, 東京.
 Kolb D.A. (1984)：Experiential learning-Experience as the source of learning and development, 39-60, Prentice-Hall, New-Jersey.

(分担執筆)；

渡辺孝子 (1998)：告知とインフォームドコンセント, *がん看護学* (季羽倭文子, 他 編), 84-91, 三輪書店, 東京.
 Redman B.K. (1993)：Assessment of motivation to learn and the need for patient education: The Process of Patient Education (7th ed), p.34, C.V. Mosby, St Louis.

※訳書の場合；原著者（原書の発行年）／訳者名（訳書の発行年）：書名、頁、発行所、発行地. の順に記載する。

Rubinfeld M.G., Scheffer B.K. (1995)／中木高夫, 石黒彩子, 水溪雅子 監訳 (1997)：クリティカルシンキング 看護における思考能力の開発, 131-152, 南江堂, 東京.

9. 原則として、またオリジナルアーティクルに際しては必ず、250語程度の英文抄録 (Abstract) 及び、その和文 (400字程度) を付ける。
10. 英文表題は、最初 (文頭) 及び前置詞、冠詞、接続詞以外の単語の最初の文字を大文字とする。
11. 掲載料は2000円／頁 (刷り上がり) とする。
12. この規定は、1999年10月2日より発効する。
 この規定は一部改訂につき、2001年9月29日より発効する。
 この規定は一部改訂につき、2007年7月1日より発効する。
 この規定は一部改訂につき、2011年10月1日より発効する。
 この規定は一部改訂につき、2014年10月1日より発効する。